

1. 調査報告概要表

作成日平成20年 1月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503601
法人名	有限会社 ほのぼの月寒
事業所名	グループホームほのぼの月寒
所在地 (電話番号)	札幌市豊平区月寒東2条19丁目20番59号 (電話)011-850-0775
評価機関名	特定非営利活動法人 アイケア・ネット
所在地	札幌市中央区南2条東1丁目1番地12
訪問調査日	平成19年11月26日

【情報提供票より】(平成19年11月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年11月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	15人, 非常勤 3人, 常勤換算 15.7人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造サイディング 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(家賃の2ヶ月分)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名	
要介護1	7名	要介護2	6名			
要介護3	5名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	81歳	最低	58歳	最高	97歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団悠仁会羊ヶ丘病院、医療法人社団賢友会さくら歯科クリニック
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設2年のグループホームである。幹線道路から徒歩5分と便利ながらも静かな住宅街に建てられており、周囲の景観にも違和感なく溶け込んでいる。開設時から管理者が代わらず、利用者との穏やかで安定した関係を築いているためか、利用者が生き生きとして生活し利用開始前より表情が明るくなる等、安心して生活していると感じている家族も多く、家族の満足度も高いようである。利用者が買物や散歩など個別に外出する機会が設けられたり、鍋料理やバイキング等食事提供の方法を工夫したり、夏には花や野菜を植え家庭菜園を作るなど利用者の楽しみを増やすよう工夫されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善点と取り組みとしては、利用者の権利に関する条文を掲示し、食事の提供に関しては鍋料理やバイキング等楽しんで食事が出来るよう工夫されている。緊急時・感染症への対応としては避難訓練を定期的に行う等取り組みがなされている。ホーム機能の地域への還元の一環としてホームヘルパーの研修生の受入も行われている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は開設後1回のみ開催されているが、まだ外部評価についての議題は検討されていない。現在は、グループホームにとって身近な存在の近隣商店の方に参加を依頼しており、地域に密着したサービスを提供していけるよう計画をしている。日程調整等を早急に行い定期的な運営推進会議を開催し、地域等の意見や要望を述べ、よりよいサービスの提供に繋げていくことが望まれます。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の状況報告をするおたよりを毎月家族へ発行している。現状では、預かり現金の記載に関してや利用者への対応方法など家族が満足している様子がみられるが、更なるサービスの向上を目指して、運営推進会議を活用する等家族が意見や要望を述べ、その意見や要望への対応を報告する機会を設けていくことが望まれます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に所属しており、ゴミ拾い等出来ることから地域の活動の参加している。グループホーム内で行う夏祭り等の行事の際には近隣にチラシを配り参加を募っている。町内会の行事の準備から参加したり、ホームの避難訓練に近隣住民に参加してもらう等、日々近隣住民がホームに訪れるような積極的な関わりを期待する。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との繋がりを重要視した運営理念を掲げており、ホームでの行事に地域の住民を招待するなど理念を実践できるよう取り組みがなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念が見やすい場所に掲示してある。職員の名札の裏面に運営理念が記載してあり、いつでも再確認できるようになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に所属し、ゴミ拾い等地域の活動に参加している。 夏祭りなどのホーム内で行事を行う際には、近隣にチラシを配るなどして参加を募っている。	○	町内会の行事にも準備段階から加わるなど積極的に参加し、近隣住民が気軽にホームを訪れてくるような関わりをもつことが望まれます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員での自己評価の取り組みがなされており、評価を生かした改善への取り組みがなされている。	○	開設後3年を迎えて更なる改善への取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が開催されているが、定期的な開催とはなっていない。 よりホームにとって身近な存在の近隣商店の方に参加していただけるよう依頼をしている。	○	定期的な運営推進会議を開催し、地域住民等の意見も活用したサービスの向上への取り組みがなされていくことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは必要に応じた連携をとり、サービスの質の向上に取り組んでいる。管理者会議に参加し情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の日々の状況をおたよりにし、家族へ報告している。また、病院受診の連絡や結果報告も行われている。預かり現金の記入方法もわかりやすく記載されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に苦情処理の説明をし、意見箱を設置するなど受け入れ体制がとられている。家族等が意見を述べやすい意思の疎通が図られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が必要な際は、利用者への影響が最小限に抑えられるよう配慮がされている。利用者に影響があった場合は職員がその都度対応している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けることができるよう体制がとられている。	○	職員が様々な知識を共有しあえるよう、フロア会議を利用したり、外部の研修を受けたあとの報告会等を設けるなど職員のスキルアップに取り組むことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が管理者会議に出席する際に他の事業者との情報交換を行っている。同会社のグループホームとの交流が行われている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前には本人と家族等が見学し、納得した上で入居している。入居後は利用者や家族からそれまでの生活環境を確認し、早く馴染んで生活ができるよう支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	得意な事のある利用者からその事について教えてもらったりするなど、お互いに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から利用者の意向を汲み取り、利用者の希望に沿うようにケアプランに取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々記入するケアファイル、サービスチェック表等が利用者個人の介護計画に沿った形で記載できるよう工夫されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングとケアプランの作成がなされており、必要時にはその都度ケアプランの見直しもなされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や状況に応じた支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医等との連携がとれており、必要なときには連絡をとり、判断を仰げるような体制がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナルケアに関する家族等の意向は把握している。必要時にはかかりつけ医の指示において対応している。	○	利用者や家族、かかりつけ医等関係者の意向を統一し、利用者にとって良い対応が取れるよう話し合いがなされていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱い方を理解しており、日々の利用者への対応も一人一人の尊厳に配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人が個々の希望やペースに合わせた生活が送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の提供方法に希望食やバイキング等を取り入れて楽しんで食事ができるよう支援している。また、利用者の状態に合わせた食器や盛り方を工夫するなど支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者それぞれのペースに合わせて入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々のできることを把握した上で、役割やレクリエーションの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣に買い物に行ったり、散歩に行ったり、利用者個別の外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵の施錠は夜間のみ行われている。玄関にはセンサーがついているが、利用者の動向を察知できるようなケアが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
丸	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の定期的な避難訓練を行っている。	○	消防署と連携した避難訓練や救急救命講習、近隣住民にも協力を得た形での避難訓練を行っていくことを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じた食事量や水分量のチェックが行われており、不足等がある場合にはこまめに対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るく過ごしやすい空間となっている。共有空間には、季節の飾り付けや利用者の作品を飾る等、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の平均入居期間が1年以上になっていることもあり、ストレスなく過ごせるような空間となっている。利用者の状況の変化により、その都度相談の上配置換え等を行っている。		

※  は、重点項目。